

R7 年度長崎版地域包括ケアシステム推進における地域意見交換会(中央部)実施報告書

共催：長崎市医師会・長崎市歯科医師会・長崎市薬剤師会・長崎県看護協会 県南支部・長崎県理学療法士協会・
長崎県作業療法士会・長崎県栄養士会・長崎市介護支援専門員連絡協議会・長崎市訪問看護ステーション
連絡協議会・ながさき地域医療連携部門連絡協議会・長崎市

目的

- ①医療・介護の専門職における長崎版地域包括ケアシステムの理解促進
- ②顔の見える関係づくり・多職種の連携強化
- ③連携における各職種の役割の明確化
- ④専門職の意見を踏まえた施策の検討

対象者

 圏域内の医療・介護専門職

- ① 連携協定締結団体のうち医療・介護に関する専門職(入退院支援に関わりのある専門職)
(市医師会/市歯科医師会/市薬剤師会/県看護協会県南支部/県理学療法士協会/県作業療法士会/
県栄養士会/市介護支援専門員連絡協議会/市訪問看護ステーション連絡協議会)
- ② 検討テーマに関する専門職：ながさき地域医療連携部門連絡協議会
- ③ 地域包括支援センター職員等

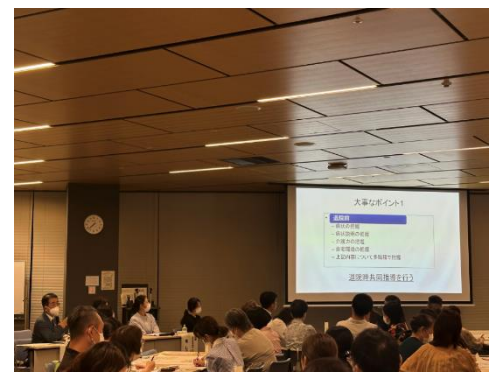
開催日時等

エリア	日時	会場
中央部	10/15(水)19:00~20:30	長崎市役所 2階 多目的スペース

・対象エリア：東長崎/日見・橘/桜馬場/片淵・長崎/西部/淵

内容

1. 開会挨拶 長崎市医師会 理事 松元 定次
2. 長崎版地域包括ケアシステム/多職種のチーム化について
3. 入退院支援の症例(長崎原爆病院の症例)
「50代乳がん患者
退院決定後状態変化あり、訪問診療(在宅医)導入・在宅調整。自宅で看取りとなった。」
ファシリテーター：長崎原爆病院 医療ソーシャルワーカー 深堀 章子
- (1) 医療ソーシャルワーカーの立場から
長崎原爆病院 医療ソーシャルワーカー 梶原 かえで
- (2) 訪問看護師の立場から
長崎原爆病院訪問看護ステーション 看護師 峰 しのぶ
- (3) ケアマネジャーの立場から
ケアプランセンターみなつき ケアマネジャー 福留 登貴子
- (4) かかりつけ医の立場から 奥平外科医院 医師 奥平 定之
(※ ライン薬局 薬剤師 水崎 直文 から 会場からのコメントあり)
- (5) 講師 4 人での討議



4. 意見交換会

テーマ「入退院支援の中で困ったことや悩んだこと、工夫していること」



参加者数

(人)

職種		10/15(水)当日	
医師	病院	2	14
	診療所・クリニック	12	
歯科医師（診療所）		1	
薬剤師	病院	0	6
	薬局	6	
看護師	病院	7	16
	診療所・クリニック	4	
	訪問看護ステーション	2	
	まちななかラウンジ	3	
理学療法士	病院	5	9
	介護事業所	1	
	長崎市在宅支援リハビリセンター	3	
作業療法士	病院	5	6
	長崎市在宅支援リハビリセンター	1	
言語聴覚士（長崎市在宅支援リハビリセンター）		1	
管理栄養士（栄養士会）		4	
医療ソーシャルワーカー		12	
社会福祉士	病院	4	7
	地域包括支援センター	3	
主任介護支援専門員	事業所	2	6
	まちななかラウンジ	1	
	地域包括支援センター	3	
介護支援専門員	事業所	9	9
	地域包括支援センター	0	
保健師	中央総合事務所	5	8
	東総合事務所	2	
	地域包括支援センター	1	
その他(相談員・事務職)		2	
医師会事務局		2	
行政		9	
計		112	